

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

令和2年7月7日

農業技術課 広域普及指導センター

1 生育状況（実証ほデータ）

近年に比べて、草丈、葉色は並み、茎数はやや少なく、葉齢は進んでいる。

葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数および葉色は平年並みとなっている。

幼穂形成期は、近年より1日早い7月11日頃と見込まれる。

今後、気温が近年並みに推移すると、出穂期は、近年より1日早い8月2日頃と見込まれる。

表1 「富富富」の生育状況（7月7日 栽培実証ほ）

年次または 試験内容	ほ場数 (筆)	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色		幼穂 形成期	出穂期
				(本/株)	(本/㎡)		葉色板	SPAD		
R2	12	5/15	58.2	25.2	557	11.6	4.2	38.4	(7/11)	(8/2)
R元	12	5/13	57.6	27.9	604	11.5	4.2	40.2	7/12	8/3
近年		5/14	55.8	27.7	593	11.3	4.3	40.0	7/12	8/3
前年比・差		2	101	90	92	0.1	0.0	-1.9	(-1)	(-1)
近年比・差		1	104	91	94	0.3	-0.1	-1.6	(-1)	(-1)
早期田植栽培・早植区	4	4/30	65.2	26.6	537	12.9	4.0	35.7	7/1	(7/23)
高品質安定栽培・試験区	4	5/15	57.4	26.1	573	11.6	4.1	37.5	(7/11)	(8/2)

注1) R2：生育観測ほ、早期田植栽培・対照区、高品質安定栽培・対照区(合計12ほ場)の平均

R元：実証ほ12か所の平均、近年：H29～R元の平均

注2) 本年の幼穂形成期及び出穂期は予測値

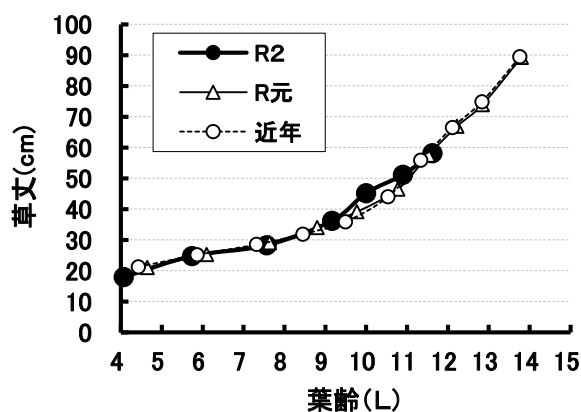


図1 草丈の推移（富富富実証ほ）

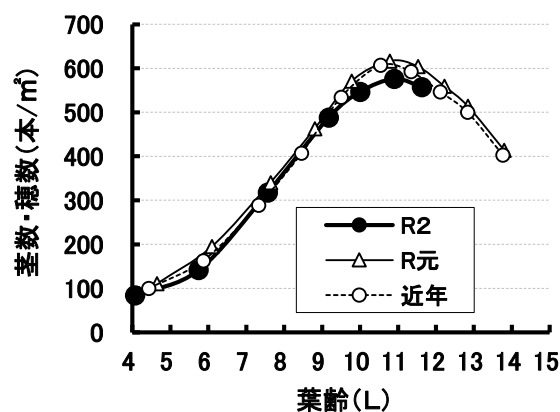


図2 茎数の推移（富富富実証ほ）

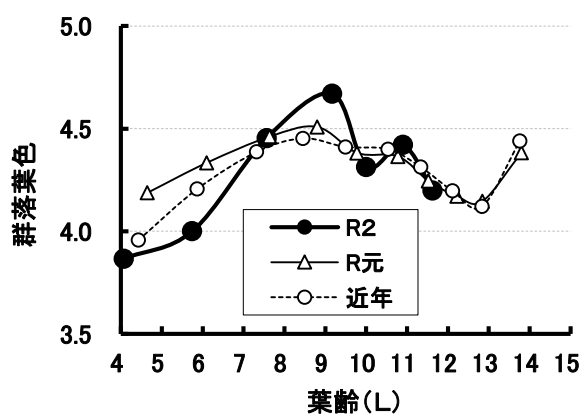


図3 葉色の推移（富富富実証ほ）

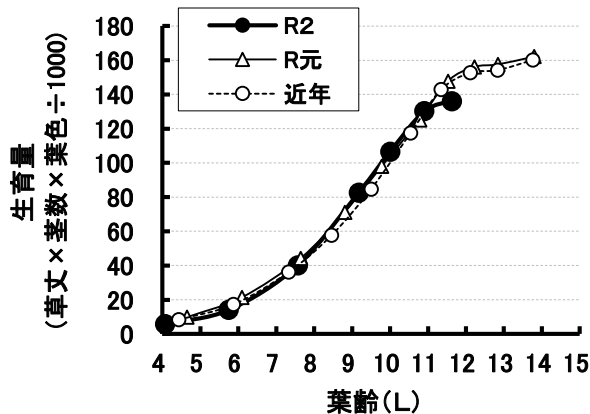


図4 生育量の推移（富富富実証ほ）

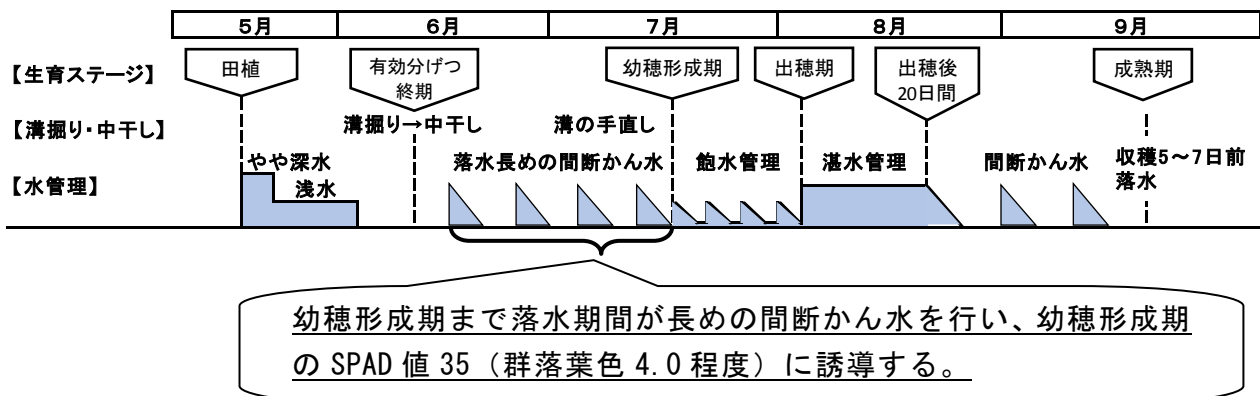
2 当面の技術対策

- ・ 幼穂形成期以降は、稲体の活力を維持するため飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。
- ・ 分施栽培における穂肥は、1回目を幼穂形成期の7日後頃に窒素成分で0.75～1.0kg/10a、2回目を1回目の7日後に窒素成分で1.5kg/10aを基本とする。

(1) 水管理

- ・ 幼穂形成期のSPAD値35（群落葉色4.0程度）に誘導するため、幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行う。
- ・ 幼穂形成期以降は、稲体の活力を維持するため飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。

<水管理のイメージ>



(2) 全量基肥栽培における穂肥施用

- ・ 原則、追加穂肥は施用しない。
- ・ ただし、幼穂形成期の14日後のSPAD値32（群落葉色4.2）未満の場合は、出穂3日前（走り穂が確認される頃）までに窒素成分で1.0kg/10a程度の追加穂肥を行い、穂揃期のSPAD値35（群落葉色4.4）に誘導する。

(3) 分施栽培における穂肥施用

- ・ 穂肥は1回目を幼穂形成期の7日後頃（幼穂長15mm程度）に窒素成分で0.75～1.0kg/10a施用し、2回目を1回目の7日後に1.5kg/10a施用する。
- ・ なお、幼穂形成期の茎数が580本/m²以上、またはSPAD値が35（群落葉色4.0）以上の場合、1回目の穂肥を施用せず、幼穂形成期の14日後頃に窒素成分で1.5kg/10aを確実に施用する。

表2 幼穂形成期の生育の目安

草丈 (cm)	m ² 茎数 (本/m ²)	SPAD	群落葉色	生育量	
				SPAD	群落葉色
62	580	35	4.0	125	140

注) 生育量 SPAD：草丈×茎数×SPAD÷10,000

群落葉色：草丈×茎数×群落葉色÷1,000

(4) その他の管理

- ・ 病虫害防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通じての化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるように留意する。